



病害虫発生予察情報予報第 4 号 (8 月の予報)





佐賀県農業技術防除センター



6 月 1 日～8 月 31 日の 3 か月間は農薬危害防止運動期間です。
農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理を徹底しましょう。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病害虫 (抜粋)
(早期) 水稲	紋枯病	やや多	 <p>斑点米カメムシ類</p>
	斑点米カメムシ類	やや多	
(早植え) 水稲	穂いもち	並	
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
(普通期) 水稲	穂いもち	並	 <p>トビイロウンカ</p>
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	やや多	
	コブノメイガ	やや多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
1. 紋枯病 近年、多発傾向にあるため、各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂20～10日前を目安とする）に防除を徹底する。			
水稲全般	1. トビイロウンカ 本種の発生状況は、田植え時期、水稲の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通-図1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期の防除を実施する（詳細は令和5年7月26日付け病害虫対策資料第6号参照）。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
イチゴ (育苗圃)	ハダニ類	多	 炭疽病による葉の汚斑型病斑
	うどんこ病	やや少	
	苗立枯症 (炭疽病・疫病)	多	
	アブラムシ類	並	
	1. 苗立枯症（炭疽病、疫病、萎黄病） 苗の立枯れおよび炭疽病による葉の汚斑型病斑が複数圃場でみられている。発病株を認められた場合は、早急に圃場外に持ち出し適切に処分する。また、ランナー切り離し後の親株は、できるだけ早期に処分する。 特に炭疽病については、伝染抑制効果が高いビニル雨よけ下で育苗を行い、定期的な薬剤防除を実施する（詳細は、令和5年7月26日付け病虫害対策資料第4号参照）。 2. ハダニ類 本圃での発生を抑えるため、育苗期の防除を徹底する。薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達の可能性が低いとされる気門封鎖系薬剤を活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いものが多いので、5～7日間隔で2回散布を1セットとし、発生状況に応じて数セット散布する。		
アスパラガス	茎枯病	並	 褐斑病
	褐斑病	並	
	斑点病	やや少	
	アザミウマ類	並	
	ハダニ類	並	
1. 褐斑病 通気を図るため、降雨時以外は施設開口部を開放する。本病は、感染から発病までの潜伏期間が20～30日と長いことから、発病前からの3週間間隔を目安とした予防散布を基本とする（前年多発生圃場及び降雨日が続く場合は間隔を短縮）。既に発生が見られるまたは多発生が見込まれる場合には、浸透移行性のある薬剤を散布する。薬液が乾きにくく薬害が出やすい夕方の散布をさける。薬剤散布時は、十分な薬量で丁寧に散布し、外側からの散布に加え、ノズルを株内に差し込むなどして、薬液が内部まで到達するよう努める。			

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
果樹全般	果樹カメムシ類	並	 チャバネアオカメムシ
	1. 果樹カメムシ 飛来状況は地域や園地によって異なるため、園内外をこまめに見回り、早期発見、早期防除に努める。		
カンキツ	かいよう病	並	 チャノキイロアザミウマ
	黒点病	並	
	ミカンハダニ	並	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	
	1. アザミウマ類 チャノキイロアザミウマによる後期被害を防ぐために、8月中旬～9月上旬頃の防除を徹底する。また、ハナアザミウマ類による着色期の果実被害を防止するため、発生源となる園内及び園周囲の雑草は、着色期前までに除草を行う。 2. かいよう病 台風の襲来等強風雨が予想される場合、本病が発生しやすい園および幼木園では、襲来7日前～前日までに必ず薬剤防除を行う。 3. ミカンサビダニ 新たに被害が確認された場合は早急に防除を行うとともに、例年多発する園では、8月中下旬頃の防除を徹底する。		
ナシ	ナシヒメシクイ	やや多	 ハダニ類
	ハダニ類	多	
	1. ハダニ類 園内をよく観察し、低密度時からの防除を徹底する。特に、園周縁部などスピードスプレーヤーによる散布で薬液がかかりにくい部分では、手散布を実施するなどして防除の徹底を図る。 2. 夜蛾類 被害を防止するため、忌避灯を点灯する時間及び点灯時の園内の明るさに注意する。		
ブドウ	べと病	多	 べと病
	褐斑病	並	
	1. べと病 本病は降雨によって感染が進展するので、降雨前の予防散布を徹底する。また、本病の罹病葉・果実は伝染源となるので、必ず除去し、園外に持ち出し適切に処分する。		

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} (平年比)	予報対象の病虫害 (抜粋)
茶	カンザワハダニ	やや多	
	クワシロカイガラムシ	やや少	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	
	チャノミドリヒメヨコバイ	多	
	チャノコカクモンハマキ	やや多	
	チャノホソガ	多	
	炭疽病	多	
	輪斑病	並	
<p>1. 炭疽病 一部圃場で発生が多い。本病は、降雨により新芽に感染するため、降雨前の保護殺菌剤による防除を基本とする。多発が予想される場合には、保護殺菌剤（開葉期）＋浸透性殺菌剤（2～3葉期）で防除を実施する。（詳細は、令和5年7月26日付け病虫害対策資料第5号参照）</p> <p>2. チャノミドリヒメヨコバイ 秋期の発生を抑えるため、秋芽萌芽期～開葉初期に防除を実施する。多発生圃では、さらに一週間後を目安に、追加防除を行う。なお、同一系統の薬剤は連用しない。</p> <p>3. チャノホソガ 幼虫が葉裏に潜行する開葉期に防除を実施する。薬剤は葉裏へ十分にかかるように丁寧に散布する。薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。</p>			炭疽病 チャノミドリヒメヨコバイ幼虫

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「佐賀県病虫害防除のてびき」も参照してください。

佐賀県病虫害防除のてびき掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

QRコード→



II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（4ページの注釈にリンクが有ります）。

写真

- 1～4ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
6ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

8月の気象条件

- 病害虫の発生に關与する8月の気象条件については、福岡管区気象台発表の1ヶ月予報（令和5年7月20日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に關与する気象条件

要素	1ヶ月予報における8月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に關与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	10	30 (28.2℃)	60	高い
降水量	30	40 (252.4mm)	30	並

Ⅲ. 8月の予報

水稲（早期、上場地域）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：12 圃場
調査日：7月21日



定期調査圃場の様子（早期水稲）

1. 紋枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率 1.7%（平年1.4%、前年0.7%）
平年比：並（±）
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）
 - 3) 防除上注意すべき事項
各圃場での発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

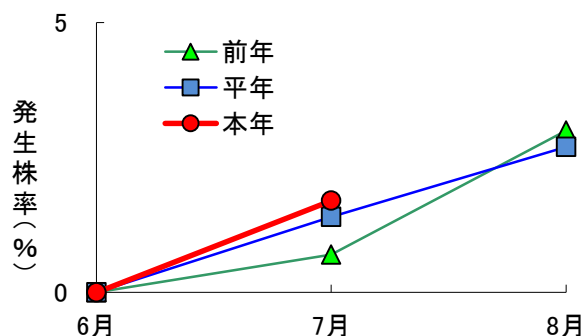


図1 早期水稲での紋枯病の発生推移

2. 斑点米カメムシ類

水稲（早植え）の斑点米カメムシ類の項参照。

水稲（山間早植え）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：12 圃場
調査日：7月14日



定期調査圃場の様子（早植え水稲）

1. 穂いもち

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）【葉いもち】
発生株率 0%（平年3.9%、前年0.7%）
平年比：やや少（-～±）
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）
 - 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 進展型病斑がみられる圃場では早急に薬剤防除を行う。
 - (2) 葉いもちの発生がみられる圃場では、穂ばらみ期の防除を実施する。発生が多いと予想される場合には穂

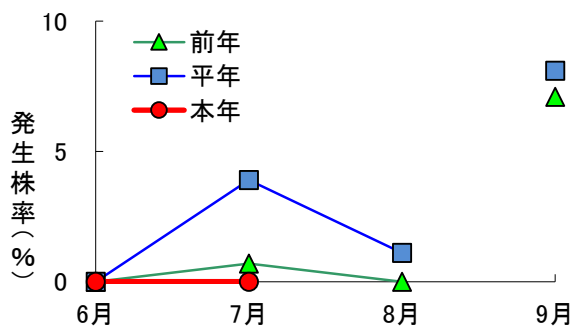


図1 山間早植え水稲でのいもち病の発生推移

揃い期にも薬剤防除を行う。

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年0.1%、前年0%)

平年比：並(±)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

本病の発生が見られる圃場では、病斑が上位の葉鞘に進展する前に防除を行う。

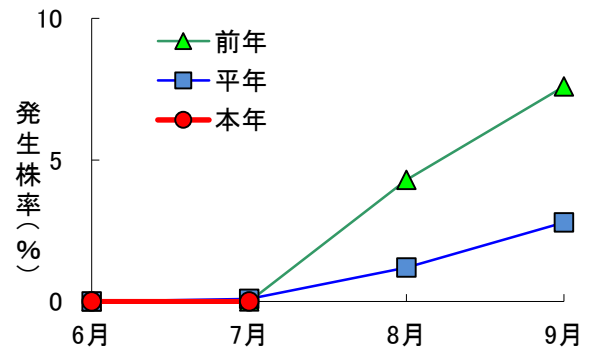


図1 山間早植え水稲での紋枯病の発生推移

3. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

6月30日～7月3日頃、7月7日～9日頃に飛来を確認しており、嬉野市のライトトラップでの6月1日から7月25日(本年は24日)までの総捕獲数は(共通表1)、10年間(2014～2023年)の中で、4番目に多い。(±～+)

(2) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年0.1%、前年0%)

平年比：並(±)

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

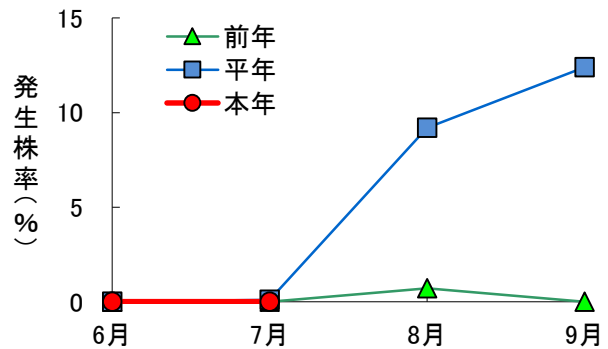


図1 山間早植え水稲でのトビイロウンカの発生推移

4. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

6月15日以降、県内のライトトラップで断続的に誘殺されている(共通表1)。(±)

(2) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年1.9%、前年0%)

平年比：やや少(一～±)

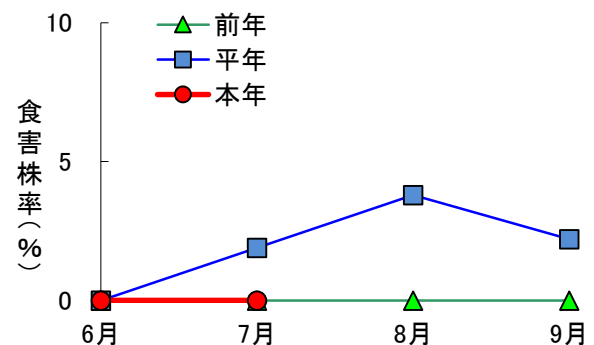


図1 山間早植え水稲でのコブノメイガの発生推移

(3) 8月の気象予報
気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、発生予測図（共通一図2）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで幼虫ふ化揃い期（発蛾最盛期の7日後）に防除を実施する。

5. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミカメ、ミナミアオカメムシ等)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) イネ科雑草での捕虫網によるすくい取り調査（7月14～21日）

発生量は、平年並（表1）。〈±〉

(2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 水稻の出穂10日前までに畦畔を含めて除草を行う。

(2) 乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に薬剤防除を行う。多発生の場合は穂揃い期とその7～10日後に薬剤防除を行う。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果
20回すくい取り虫数(2023年7月14日～21日)

調査地点	場所	草種	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアオカメムシ
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
佐賀市東与賀町	道端	イノコクサ類	17	8	0	0	0	0	0	0	0
佐賀市富士町	畦畔	ヒエ類	0	0	4	0	0	0	1	0	0
唐津市鎮西町	道端	オヒシバ	3	1	4	1	0	0	55	108	0
唐津市肥前町	道端	イノコクサ類	0	0	0	0	0	0	1	1	0
鳥栖市	道端	イノコクサ類	0	0	1	0	1	0	4	0	0
伊万里市	畦畔	イノコクサ類	10	8	2	1	0	0	12	28	0
武雄市	道端	イノコクサ類	0	0	1	0	0	0	0	0	0
鹿島市	道端	ヒエ、イノコクサ類	0	0	0	0	0	0	5	6	0
神崎市神埼町	道端	イノコクサ類	1	1	1	0	0	0	0	0	0
吉野ヶ里町	道端	イノコクサ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石町有明	道端	イノコクサ類	0	0	0	0	0	0	2	0	0
本年（平均）			2.8	1.6	1.2	0.2	0.1	0.0	7.3	13.0	0.0
平年（過去10年の平均）			2.8	3.1	1.2	0.5	0.2	0.6	15.0	8.6	0.03
前年（平均）			0.5	1.8	1.5	0.4	0.5	1.1	11.8	3.6	0.0

水稻（普通期）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：48 圃場
調査日：7月18日～21日



定期調査圃場の様子（普通期水稻）

1. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査 (図1参照) 【葉いもち】

発生株率 2.2% (平年2.5%、前年 0.2%)

平年比：並 (±)

(2) 感染好適条件発生状況【県内、隣接県 計10地点】

BLASTAM (7月6日～23日) では、準感染好適条件が、7月8日、12～13日、19～20日に出現した(表1、図2)。(±)

(3) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

水稻 (山間早植え) の穂いもちの項参照。

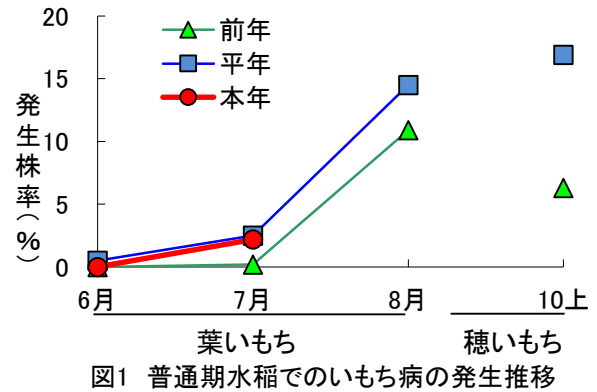


図1 普通期水稻でのいもち病の発生推移

表1 BLASTAMによる葉いもち感染好適条件の出現状況(2023年)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
7月	6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8日	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
	9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12日	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
	13日	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
	14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	19日	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
	20日	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-
	21日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	22日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	23日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

- 1: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20°C未満)
- 2: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25°C以上)
- 3: 準好適条件 (湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15~25°Cの範囲外)
- 4: 準好適条件 (湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
- : 好適条件 (湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
- : 好適条件の出現なし
- ? : 判定不能

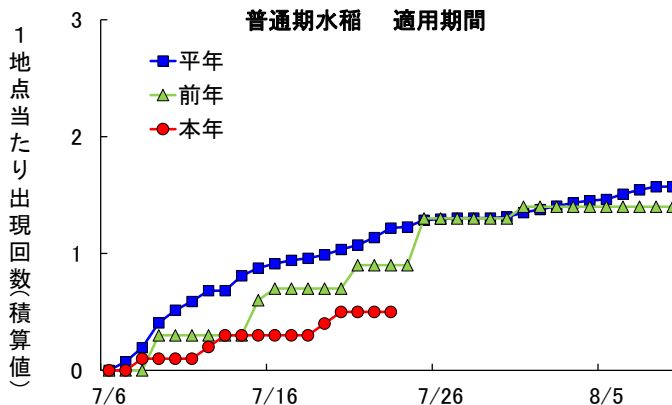


図2 BLASTAMによる準感染・感染好適条件の出現回数 (6月16日移植の場合: 適用期間7月6日～8月9日)

2. 紋枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率 0%（平年0.01%、前年0%）
平年比：並（±）
 - (2) 8月の気象予報
気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
特記事項を参照。

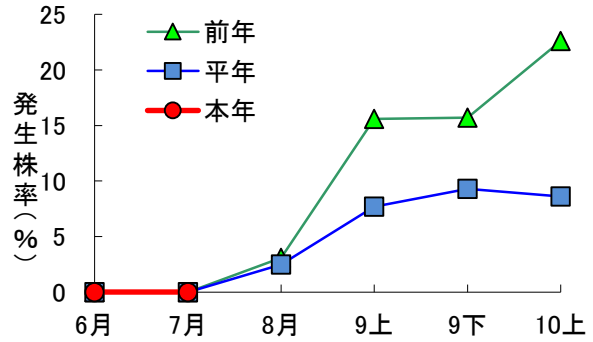


図1 普通期水稲での紋枯病の発生推移

3. 白葉枯病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の内容
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査
発生株率 0%（平年0%、前年0%） 平年比：並（±）
 - (2) 8月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 台風等の強風雨後に発生しやすい。発生した場合には拡大を防ぐため葉が乾くまで圃場に入らない。

4. もみ枯細菌病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 8月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
気象予報に留意し、開花期間に降雨が予想される場合は、出穂前後3日の間に防除を行う。特に、苗床で発生した圃場では、確実に実施する。

5. トビイロウンカ

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い
- 2) 予報の根拠
 - (1) これまでの飛来状況
6月30日～7月3日頃、7月7日～9日頃に飛来を確認しており、嬉野市のライトトラップでの6月1日から7月25日（本年は24日）までの総捕獲数は（共通-表1）、10年間（2014～2023年）の中で、4番目に多い。（±～+）

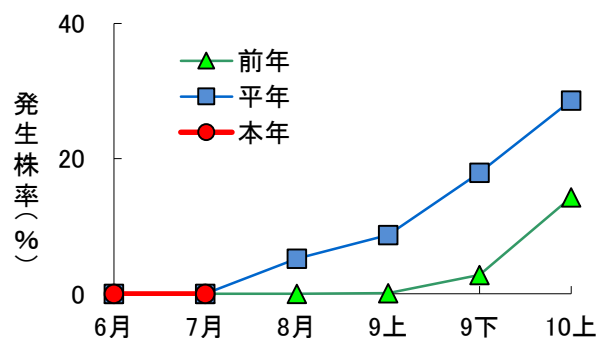


図1 普通期水稲でのトビイロウンカの発生推移

(2) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%)

平年比: 並 (±)

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

6. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) これまでの飛来状況

6月15日以降、県内のライトトラップで断続的に誘殺されている (共通-表1)。 (±)

(2) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 2.8% (平年1.6%、前年0.3%)

平年比: 並 (±)

(3) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、発生予測図 (共通-図2) を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで幼虫ふ化揃い期 (発蛾最盛期の7日後) に防除を実施する。

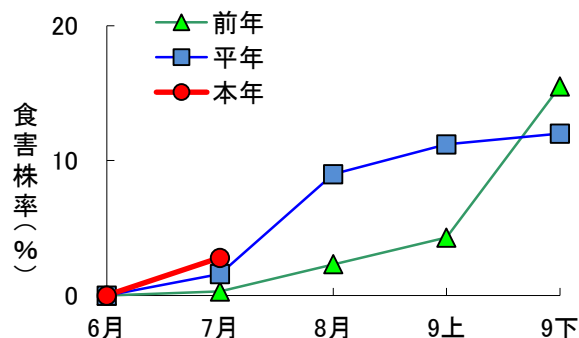


図1 普通期水稲でのコブノメイガの発生推移

7. フタオビコヤガ(イネアオムシ)

1) 予報の内容

発生量: 平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 0% (平年0.01%、前年0%) 平年比: 並 (±)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (+)

3) 防除上注意すべき事項

8月中~下旬頃に圃場における発生状況を確認し、上位葉に多数の幼虫が認められる場合には防除を実施する。

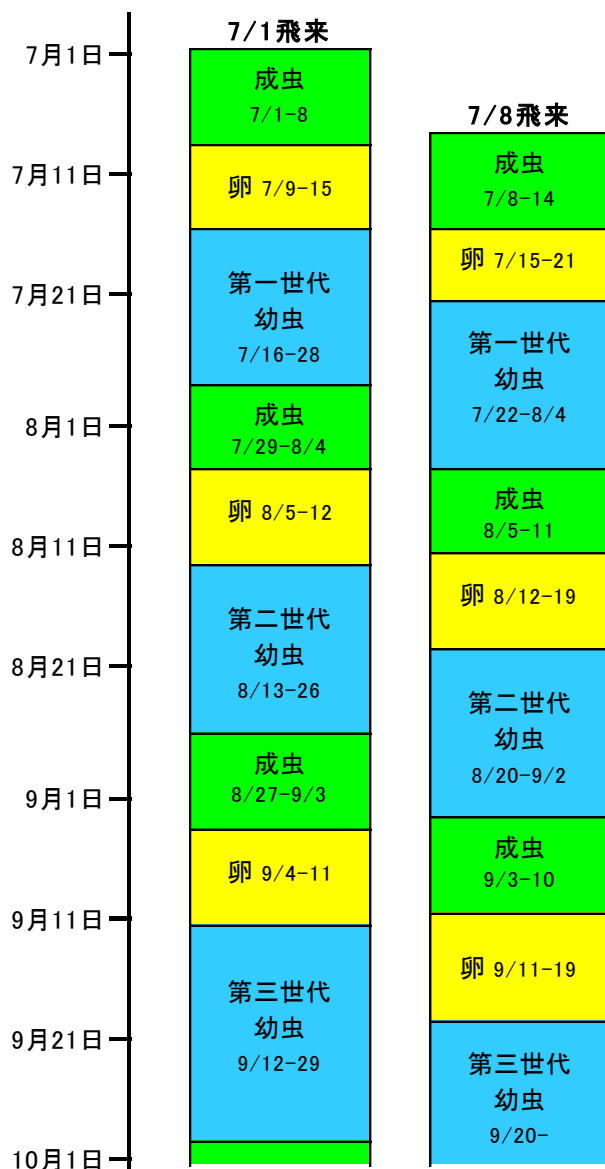
8. 斑点米カメムシ類

水稲 (早植え) の斑点米カメムシ類の項参照。

共通一表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2023年)

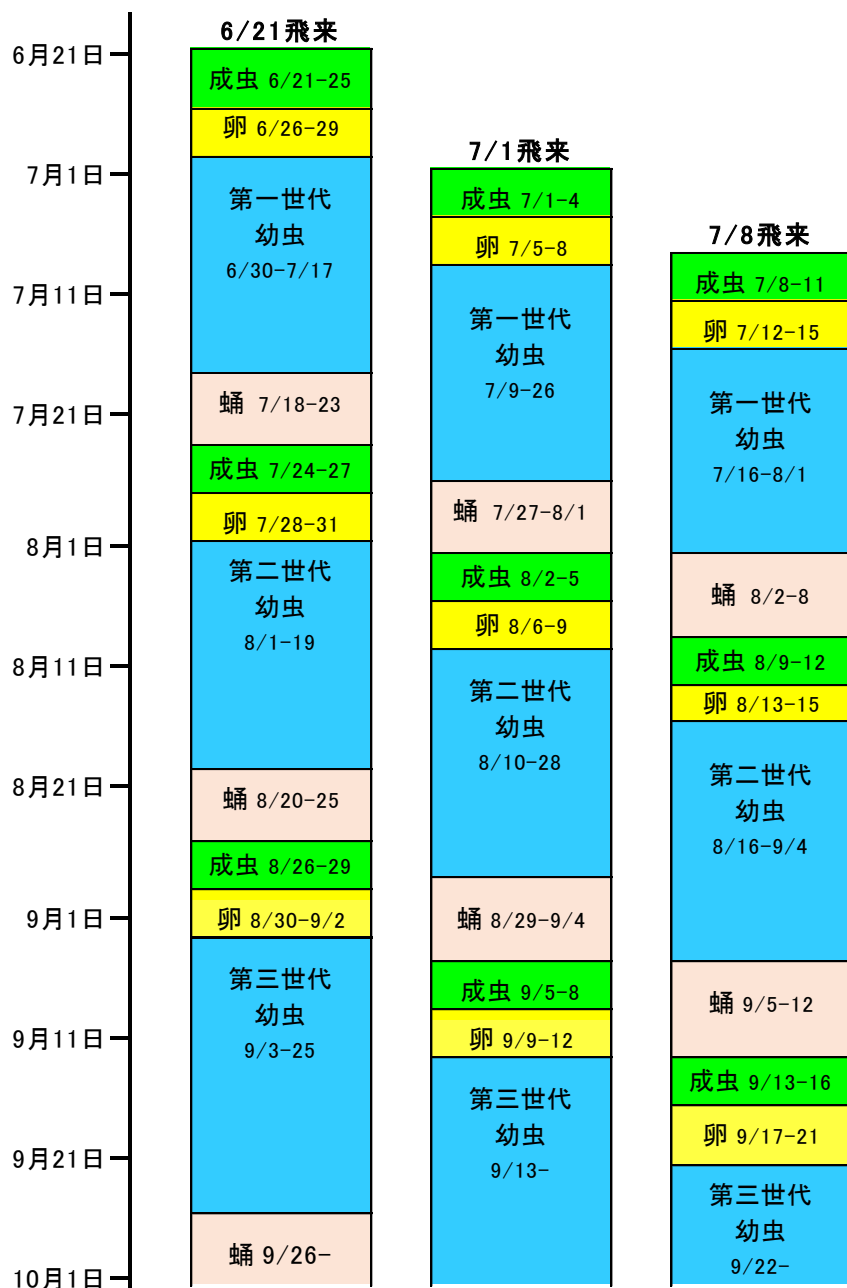
月	日	トビイロウンカ					セジロウンカ					コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県			佐賀県		長崎県			佐賀県			長崎県			
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神崎市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップA	ネット トラップB	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0					0	0
	18日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	19日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	21日	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0					0	0
	22日	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0					2	0
	23日	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	25日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	4
	26日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					1	0
	27日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	28日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0					0	0
	29日	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0					0	0
	30日	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0					5	0
7月	1日	0	12	0	0	0	0	70	1	0	0	0					4	0
	2日	0	0	0	0	0	0	58	0	0	0	0					10	4
	3日	0	15	0	0	0	0	75	0	0	0	0					5	3
	4日	0	4	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	10	3
	5日	0	19	0	0	0	0	1	23	19	0	0	0	0	0	0	5	3
	6日	0	3	0	0	0	0	0	43	31	2	0	0	0	0	0	0	3
	7日	0	4	0	0	0	0	2	6	0	4	0	0	0	0	0	0	4
	8日	0	14	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	9日	0	3	0	0	0	0	1	16	1	1	0	0	0	0	0	0	1
	10日	0	0	1	1	0	0	0	15	6	0	0	0	0	0	0	1	3
	11日	0	2	0	0	0	0	1	10	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	12日	0	2	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	13日	0	4	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	16日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	17日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	18日	0	0					0	0			0	0					
	19日	0	0					0	0			0	0					
	20日	0	0					0	0			0	0					
	21日	0	0					0	0			0	0					
	22日	0	0					0	0			0	0					
	23日	0	0					1	0			0	0					
	24日	0	0					0	0			0	0					

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。
 注2)コブノメイガ:神崎市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
 ※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。



共通-図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第2版、2023年7月25日作成)

1. 6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。



共通-図2 コブノメイガ各世代の発生予測(第1版、2023年7月25日作成)

1. 6月21日頃、6月30日～7月3日頃(図では7月1日)、7月7日～9日(図では7月8日)の飛来虫を起点とし、佐賀市川副町の気温データより算出した有効積算温度(7月25日以降は平年値)を基に作成した。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、**本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認**する。

イチゴ（育苗圃）

[【概要に戻る】](#)

定期調査：10 圃場
調査日：7 月 18～21 日



1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：10.4%（平年 7.3%、前年 9.2%）

平年比：やや多（±～+）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照する。

定期調査圃場の様子

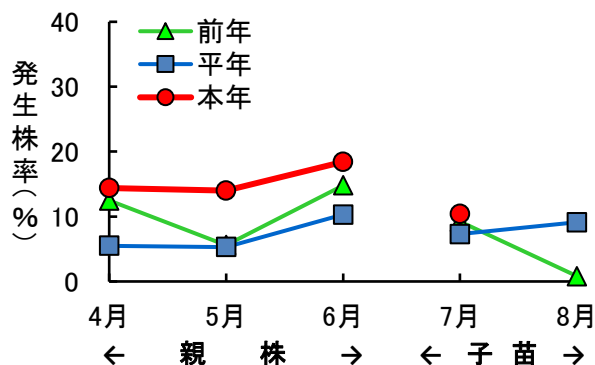


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：0%（平年 9.2%、前年 0%）

平年比：やや少（-～±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 定期的な薬剤防除を実施する。

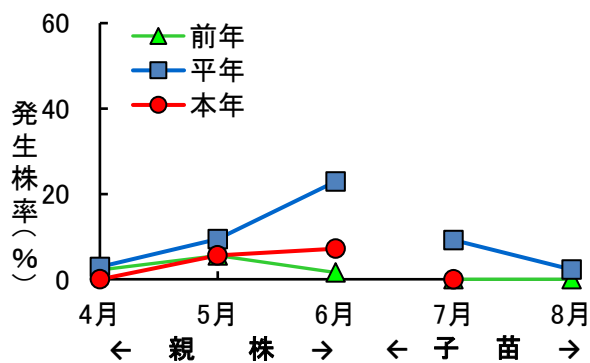


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 苗立枯症（炭疽病・疫病）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1 参照）

発生株率：0.2%（平年 0%、前年 0%）

平年比：多（+）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

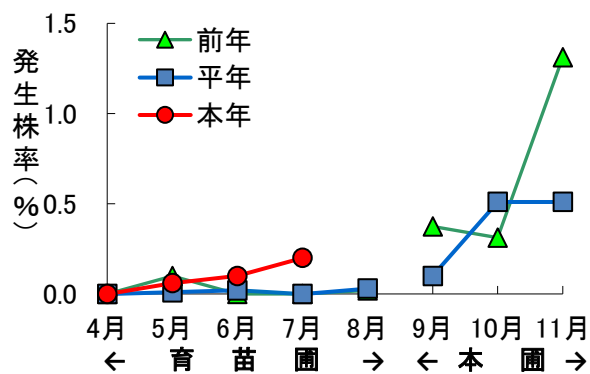


図1 イチゴ立枯症の発生推移

アスパラガス

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8 圃場
調査日：7 月 18～21 日



定期調査圃場の様子

1. 褐斑病

- 1) 予報の内容
発生量：平年並
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1 参照）
発生株率：3.1%（平年 2.7%、前年 0.6%）
平年比：並（±）
 - ② 8月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件（±）
 - (2) 8月の気象予報
降水量は並で、並発生の条件（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

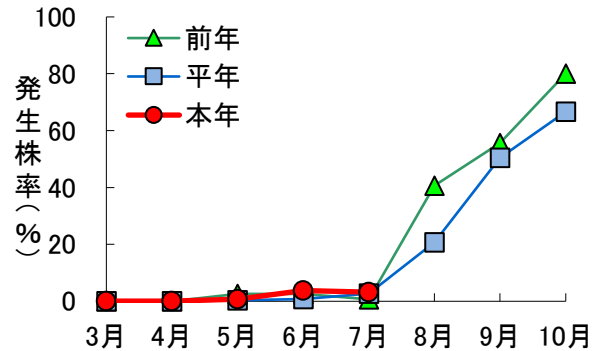


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

果樹全般

[【概要に戻る】](#)

1. カメモシ類

- 1) 予報の内容
越冬世代虫の発生量：平年並
次世代虫の果樹園への飛来予想時期：県平均9月3半旬頃（早い地域は9月2半旬頃）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 6月1半旬～7月4半旬までの誘殺量
 - ① 予察灯（図1 参照）
平年比：やや少（-～±）

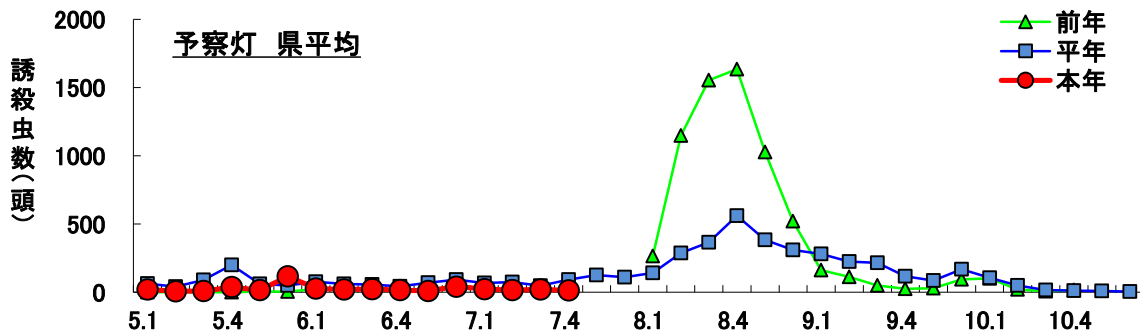


図1 予察灯（佐賀市、小城市）による果樹カメモシ類の平均誘殺数の推移

※小城の予察灯は、前年(R4年)6月3半旬～7月6半旬まで故障しデータが欠測しているため、この期間の前年値は表記していない

②フェロモントラップ (図2 参照)

平年比: 少く-

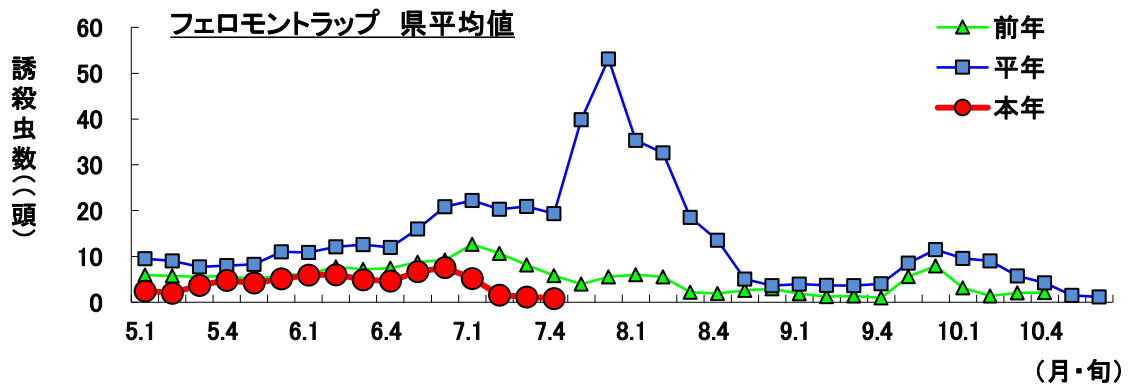


図2 フェロモントラップ (小城市、鹿島市、伊万里市、唐津市浜玉町、唐津市鎮西町、基山町、太良町) による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

(2) ヒノキ毬果における寄生数 (図3、表1 参照、7月18~21日調査)

成幼虫数平均: 7.4 頭 (平年 10.9 頭、前年 23.8 頭)

平年比: 並く±

(3) ヒノキ毬果における口針鞘数 (図4、表1 参照、7月18~21日調査)

口針鞘数平均: 0.2 本/果 (平年 2.0 本、前年 1.9 本)

平年比: やや少く-~±

(4) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件 (+)

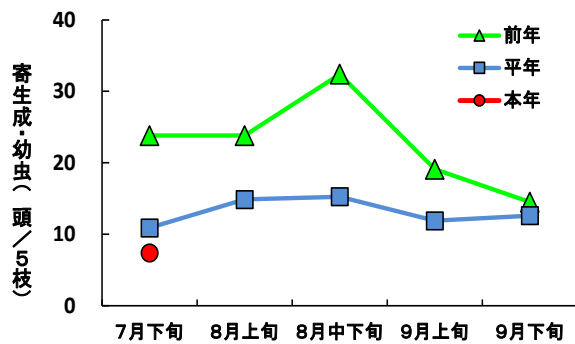


図3 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生数の推移

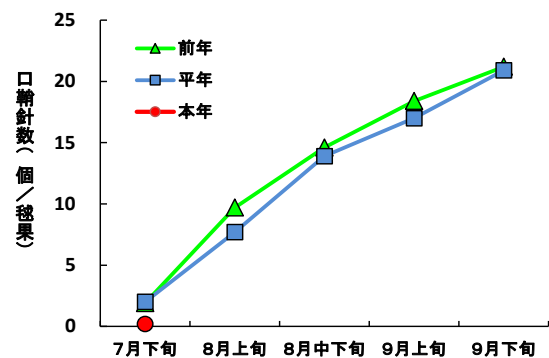


図4 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針鞘数の推移

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数（図3、4に関する地点別の状況）
（調査日：7月18～21日）

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況 ¹⁾			口針鞘数 ²⁾ 7月下旬	離脱予測時期 ³⁾ (各調査日から算出)	ヒノキ毬果 ⁴⁾ 着果程度
		成虫	幼虫	合計			
1	神 埼 市	1	4	5	0.6	9月3半旬頃～	やや少
2	上 峰 町	0	0	0	0.3	9月3半旬頃～	やや少
3	小 城 市	0	0	0	0.1	9月2半旬頃～	やや少
4	唐 津 市 1	12	4	16	0.2	9月2半旬頃～	やや多
5	唐 津 市 2	2	0	2	0.1	9月2半旬頃～	やや少
6	唐 津 市 3	4	0	4	0.0	9月2半旬頃～	やや少
7	伊 万 里 市 1	0	2	2	0.1	9月2半旬頃～	中
8	伊 万 里 市 2	4	3	7	0.2	9月2半旬頃～	中
9	伊 万 里 市 3	6	26	32	0.7	9月2半旬頃～	多
10	鹿 島 市 1	7	7	14	0.1	9月3半旬頃～	やや少
11	鹿 島 市 2	1	0	1	0.1	9月3半旬頃～	多
12	太 良 町 1	4	8	12	0.1	9月3半旬頃～	やや少
13	太 良 町 2	0	1	1	0.0	9月3半旬頃～	やや少
	平均	3.2	4.2	7.4	0.2	9月3半旬頃～ ⁵⁾	やや少
	平年	-	-	10.9	2.0		
	前年(R4年)	-	-	23.8	1.9		

1) たたき落としによる調査

2) 口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向

3) 各調査日における口針鞘数～離脱予想時期(25本/果に達する時期)の平均値より算出

4) ヒノキ毬果着果程度：福岡総農試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

・極少：ほとんど結実が見あたらない

・少：梢頭部にわずかに結実

・やや少：梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在

・中：梢頭部から中央部付近にかけて結実

・やや多：梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在

・多：梢頭部から最下部にかけて全面的に結実

・極多：梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

5) 離脱予想時期の県平均は、各調査日及び口針鞘数の平均値により算出

※ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地形等により差が大きいため、各調査地点の結果が必ずしも当該地域全体の状況を示すものではない。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹カメムシ類は、樹高の高い樹木に一旦飛来し、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くないよう剪定をする。

(2) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖(リサージェンス)を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。

(3) その他については、特記事項を参照する。

カンキツ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8圃場
調査日：7月14～21日



定期調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1、2 参照)

発生葉率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

発生果率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

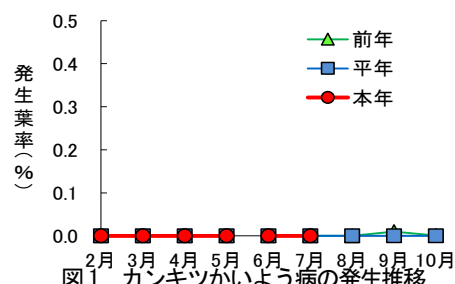
3) 防除上注意すべき事項

(1) 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種 (ネーブル、はるみ等) の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園 (幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等) では、無機銅水和剤 (クレフノン 200 倍加用) で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は 20~25 日とする。

(2) 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので控える。

(3) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。

(4) その他については、特記事項を参照する。



注) 5月下旬までは旧葉を調査

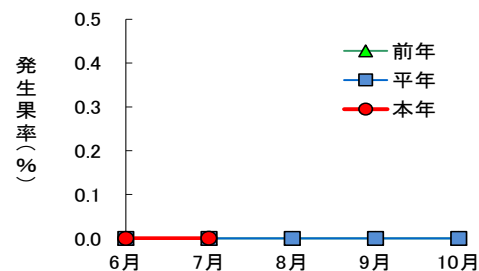


図2 カンキツかきよう病 (果実) の発生推移

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生果率：1.5% (平年4.8%、前年0%)

平年比：並 (±)

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が 200~250mm (マシン油乳剤を 6 月に加用した場合は 300~400mm) に達した時点を目安とする。ただし、同雨量に達しない場合でも、散布後 1 ヶ月を目途に次の散布を行う。

(2) 枯れ枝や剪定枝は伝染源となるため除去し処分する。園内に残った切り株は伐根するか、ビニルの袋などで全体を覆って病原菌の胞子が飛散するのを防ぐ。

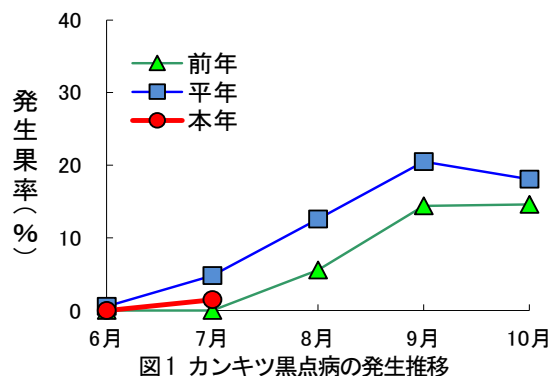


図1 カンキツ黒点病の発生推移

3. ミカンハダニ

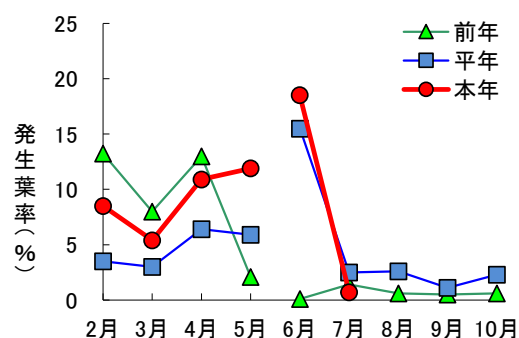
1) 予報の内容

発生量：平年並

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)



発生葉率：0%（平年2.5%、前年0.7%）

平年比：やや少（-～±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満）からの薬剤防除を徹底する。
- (2) マシン油乳剤を7月以降に使用すると果実腐敗の発生を助長したり、糖度の低下を招いたりする場合がありますので使用しない。

図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生果率：0.8%（平年0.4%、前年0%）

平年比：やや多（±～+）

② 黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

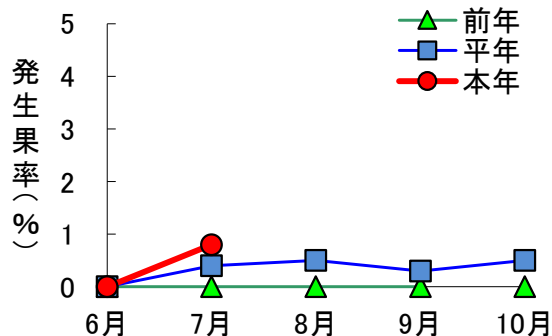


図1 チャノキイロアザミウマによる被害果の発生推移

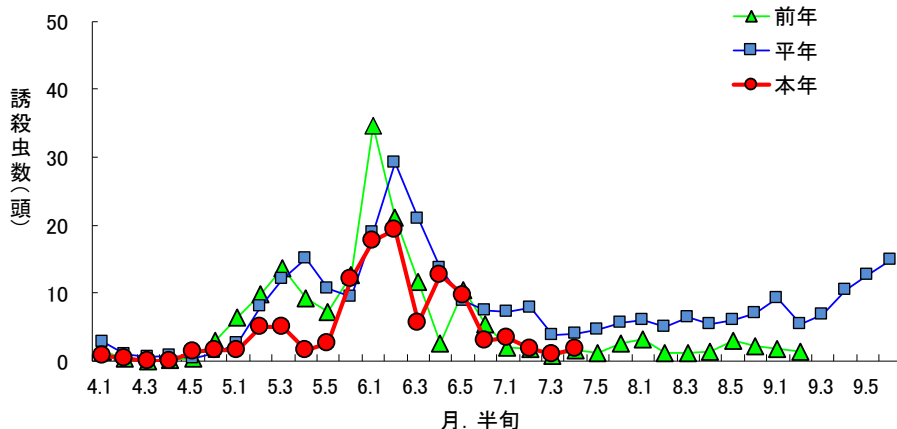


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移（小城市 果樹試験場調査）

ナシ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：8圃場

調査日：7月19日



定期調査圃場の様子

1. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①ナシ園地に設置したフェロモントラップ (図1 参照)

平年比：並 (±)

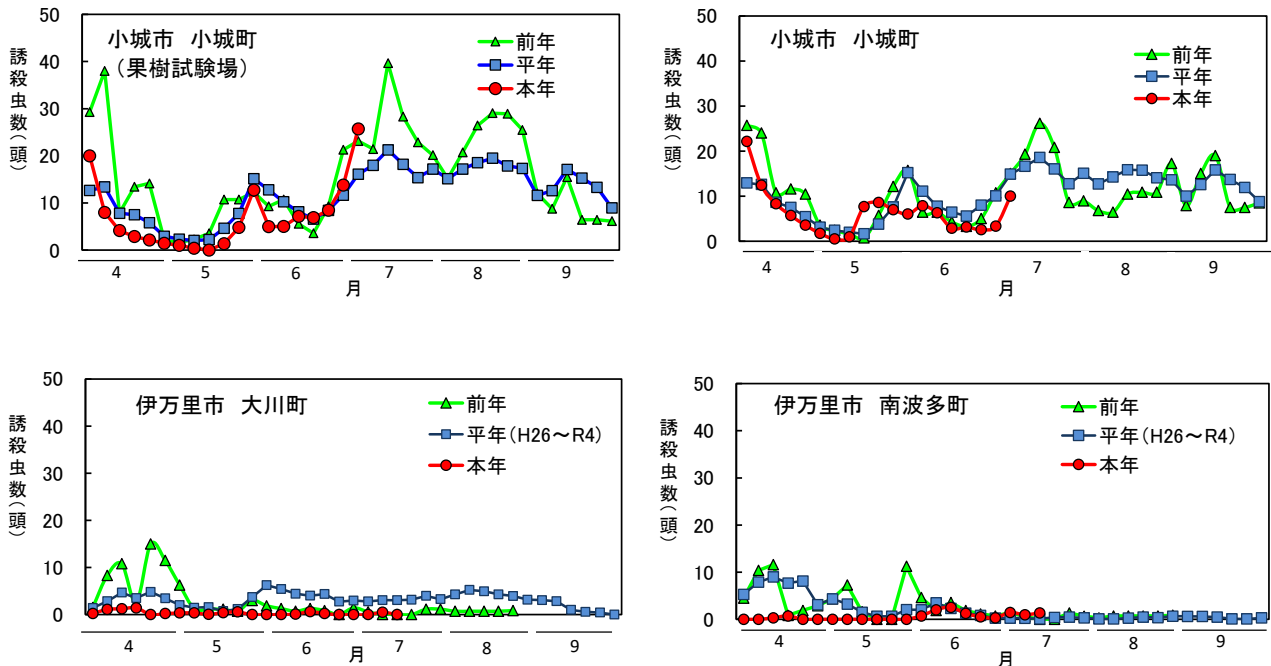


図1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイの誘殺数の推移
(果樹試験場、西松浦地域振興センター調査)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 7月以降は世代が混在するため、7～10日間隔で薬剤散布を行う。
- (2) 交信攪乱フェロモン剤設置園においても、10～14日間隔で薬剤防除を行う。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生葉率：11.0% (平年1.7%、前年1.2%)

平年比：多 (＋)

(2) 7月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件 (＋)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時 (寄生葉率 10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満) からの防除を徹底する。
- (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。
- (3) その他については、特記事項を参照する。

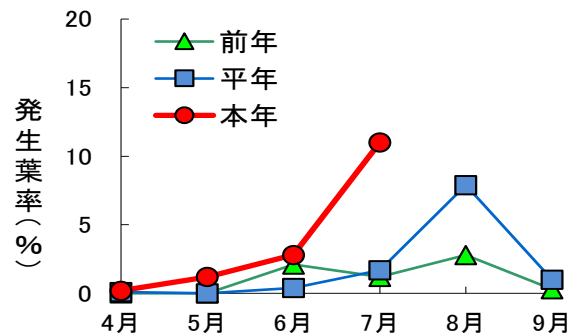


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

ブドウ

[【概要に戻る】](#)

定期調査：6 圃場
調査日：7 月 18～21 日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生葉率：5.2%（平年 2.0%、前年 0.2%）
平年比：多（+）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除効果を高めるために、棚面の上からも散布する。

(2) ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対し耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除には使用しない。

(3) その他については、特記事項を参照する。

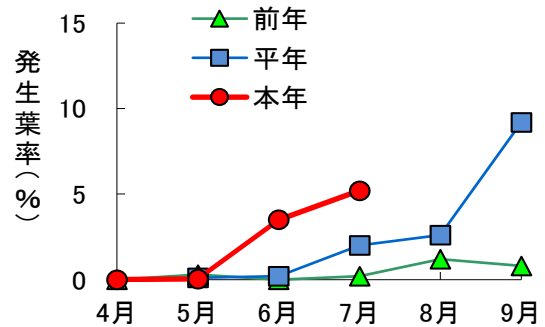


図1 ブドウベと病の発生推移

茶

[【概要に戻る】](#)

定期調査：7 圃場
調査日：7 月 14～18 日



定期調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生葉率：1.4%（平年 1.0%、前年 0.9%）
平年比：並（±）

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

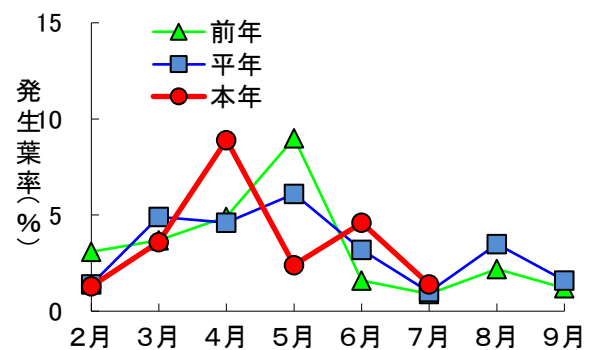


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

2. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

虫数：19.4頭/4ヶ所 (平年18.1頭、前年17.4頭)

平年比：並(±)

② 吸引粘着トラップ (図2 参照)

平年比：やや少(〜±)

(2) 8月の気象予報

気温は高く、降水量は並で、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 幼虫は葉裏に生息することが多いため、葉裏へ薬剤が十分にかかるように丁寧に散布する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

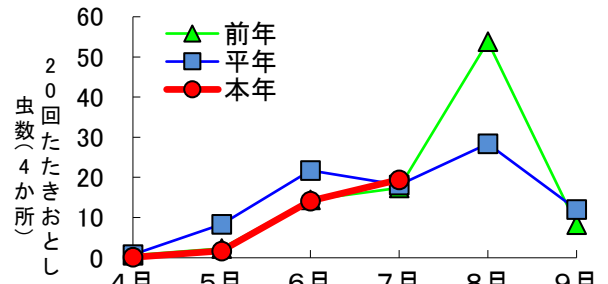


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

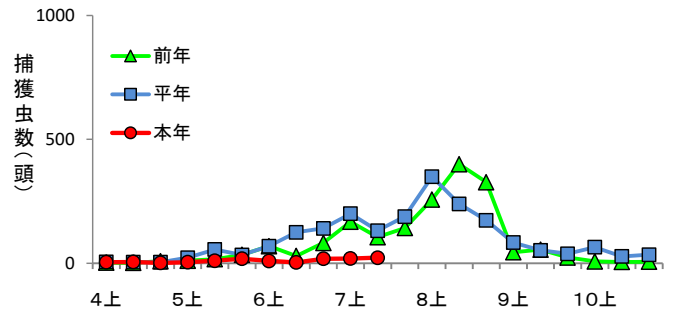


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの旬別捕獲虫数の推移 (嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

3. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

虫数：3.9頭/4ヶ所 (平年2.4頭、前年8.9頭)

平年比：やや多(±~+)

(2) 8月の気象予報

気温が高く、多発生の条件(+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

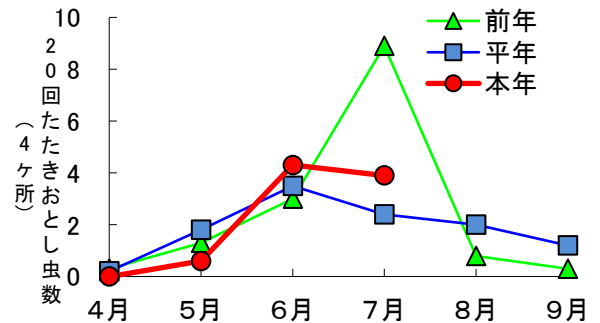


図1 チャノミドリヒメヨコバイの茶での発生推移

4. チャノコカクモンハマキ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

被害葉数：24.1枚/m² (平年2.2枚、前年2.9枚)

平年比：多(+)

② フェロモントラップ (図2、3 参照)

平年比：並(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤が十分にかかるように散布する。発蛾最盛期から1週間後が防除適期である。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

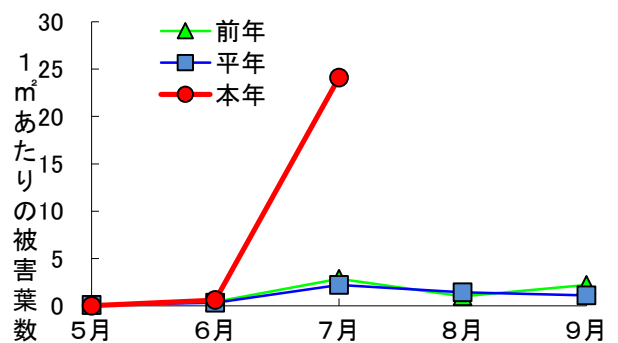


図1 チャノコカクモンハマキの被害葉数の発生推移

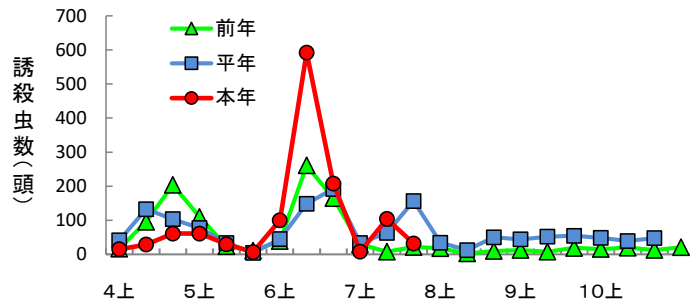


図2 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの旬別誘殺数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

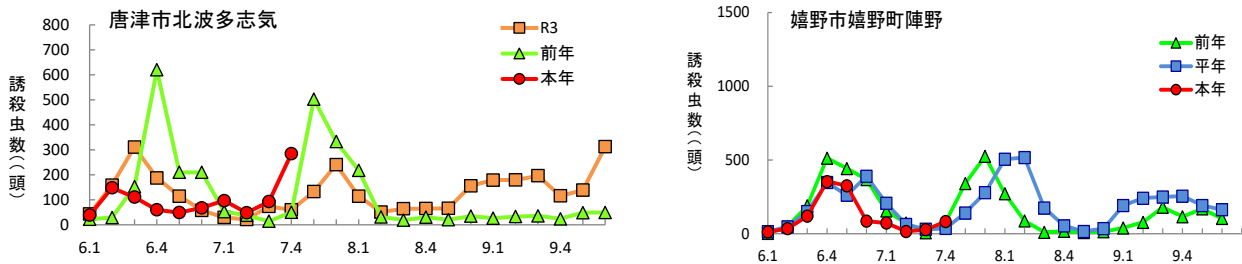


図3 フェロモントラップによるチャノコカクモンハマキの半旬別誘殺数推移(唐津市・嬉野市、防除員調査)
 ※ 唐津市は、令和3年に設置場所を変更したため、R3~R5のみ掲載。(平年値はなし)

5. チャノホソガ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照、)

被害葉数：2.1枚/m²(平年0.6枚、前年0.1枚)

平年比：多(+))

②フェロモントラップ(図2、3参照)

平年比：並(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

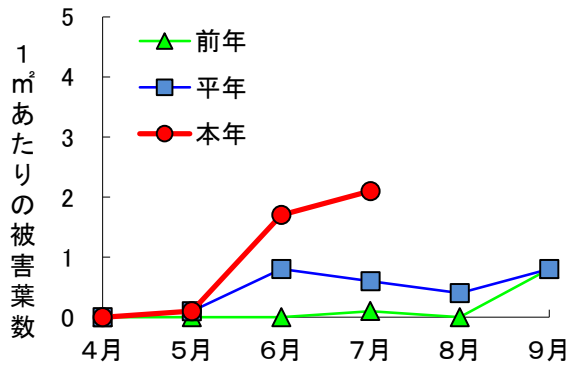


図1 チャノホソガの被害葉数の推移

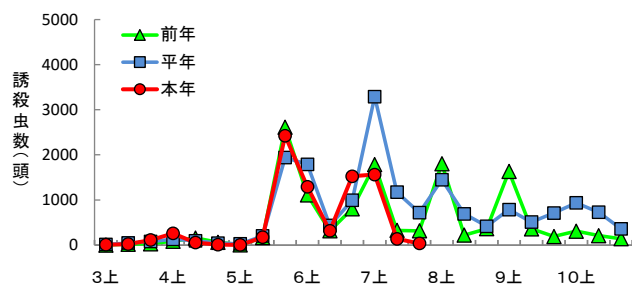


図2 フェロモントラップによるチャノホソガの旬別誘殺数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

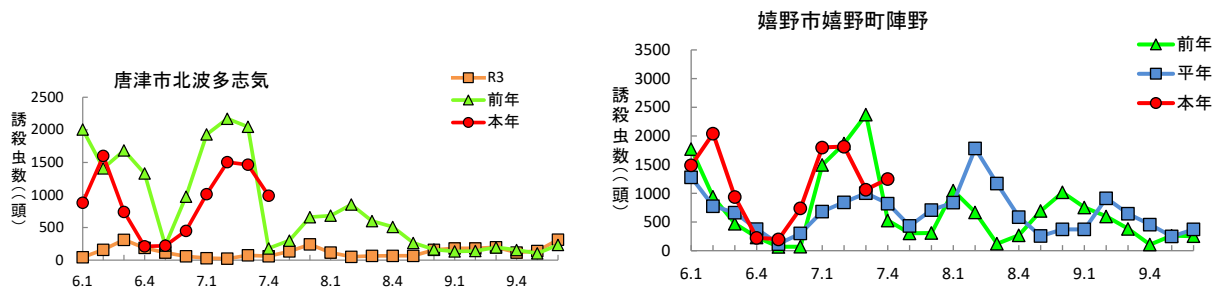


図3 フェロモントラップによるチャノホソガの半旬別誘殺数推移（唐津市・嬉野市、防除員調査）
 ※ 唐津市は、令和3年度に設置場所を変更したため、R3～R5のみ掲載。（平年値はなし）

6. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉数：16.0枚/m²（平年4.4枚、前年10.0枚）

平年比：多（+）

(2) 8月の気象予報

降水量は並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

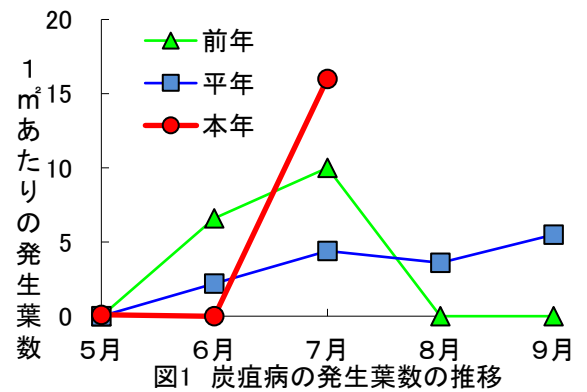


図1 炭疽病の発生葉数の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

